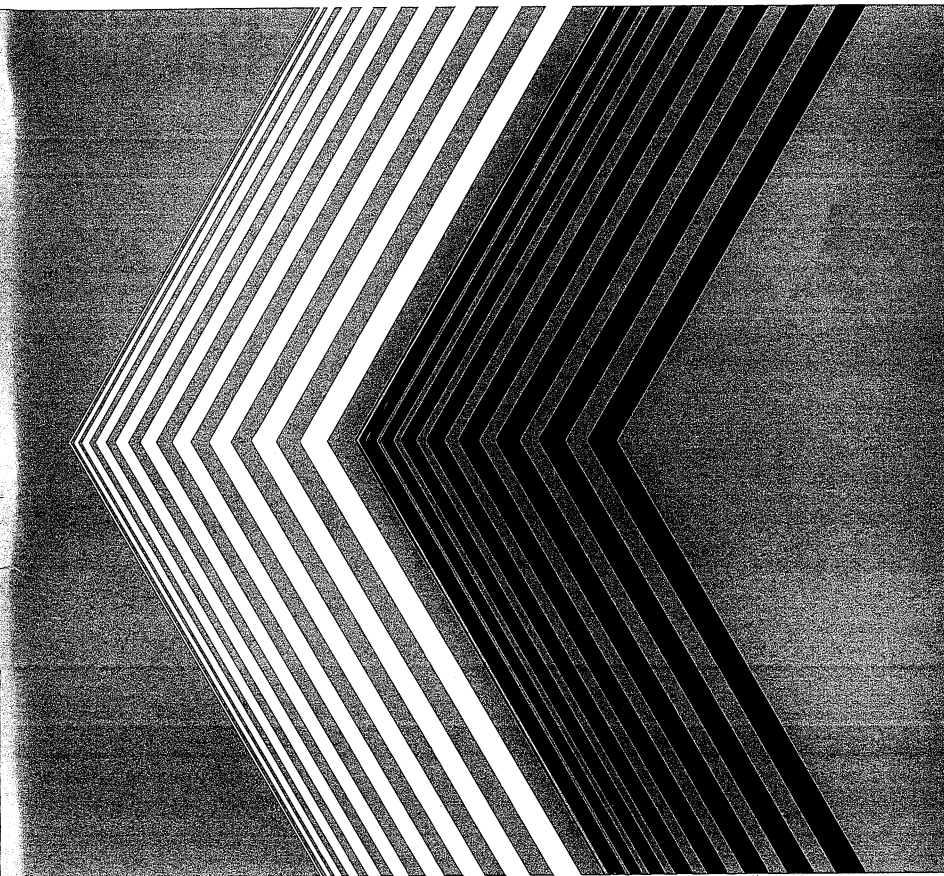


ホンダ 発電機

EM550・EB550・hippo EB550

取扱説明書



お買いあげありがとうございます。

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

ホンダ発電機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただきました販売店またはサービス店**にお気軽にお申し付けください。

取扱い説明書について

この説明書は

- 運転をするときには、必ず携帯してください。
- 発電機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡してください。
- 紛失や損傷したときは、お買いあげ販売店、サービス店またはホンダ汎用営業所にご注文ください。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた発電機で安全かつ能率的な運転をする手助けとして編集されたものです。

取扱説明書には、発電機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。

発電機を運転する前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、発電機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の指示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。なお、この取扱説明書はEM550を使用して説明してあります。

保証書はよくお読みいただき裏面の商品受領書のサイン欄にご署名の上、大切に保管してください。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう	4
安全ラベル	8
各部の名称と取扱いをおぼえましょう	9
・ エンジン スイッチ	11
・ オイル アラート機構(EMモデルのみ)	11
・ 始動グリップ	11
・ チョーク レバー	12
・ 運転表示灯(EMモデルのみ)	12
・ 交流リセット スイッチ	13
・ 交流コンセント	13
・ 電圧計(EMモデルのみ)	14
・ 電圧調整スクリュ(EBモデルのみ)	14
・ 直流リセット スイッチ/直流出力端子(EMモデルのみ)	15
・ 周波数切換スイッチ(EMモデルのみ)	16
・ アース端子	16
運転をする前に点検しましょう	17
燃料の点検	17
エンジン オイルの点検	19
エア クリーナの点検	20
発電機周辺の点検	21
発電機のかけかた	22
電気の取出しかた	24
交流	24
直流(12Vバッテリー充電専用)(EMモデルのみ)	27
発電機のとめかた	30
定期点検を受けましょう	31

やさしい点検・調整	32
エンジン オイルの交換	32
エア クリーナの清掃	34
点火プラグの清掃・調整	36
常時使用しない場合には	38
運搬する場合には	39
長期間使用しないときの手入れ	40
修理を依頼する前の簡単な点検	42
主要諸元	44
交流電源/直流電源の使用できる範囲	45
配線図	47

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上、操作してください。
- この発電機は車載用として製造はしていませんので車載したまま使用しないでください。
- 発電機を間違いなく取扱うために各部操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 適切な指示なしでは絶対に誰にも発電機の操作をさせないでください。特に子供には絶対操作させないでください。事故や、本機、使用器具の損傷が起こる原因となります。
- エンジンを始動する前に必ず「運転する前に点検しましょう」(17～21頁)を行ってください。事故や本機、使用器具の故障の防止になります。
- 過労や飲酒、薬物を服用して発電機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 排気ガス中には、有害な成分が含まれています。排気は風通しのよい場所に向けてください。ご使用になる方はもちろん、まわりの人や、動植物などにも十分ご注意ください。
- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内などや換気の悪い場所では使用しないでください。
換気の悪い場所は、酸素不足と有害な一酸化炭素がたまってガス中毒の危険があります。

警告

- 燃料は非常に引火しやすく、また気化した燃料は爆発して大けがや死亡事故を引き起こす恐れがあります。燃料を補給するときは、エンジンを停止し換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給しているときは、タバコを吸ったり、炎や、たき火などの火気を近付けないでください。
- 燃料は、こぼさないように注意してください。燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取り、乾かしてからエンジンを始動してください。
- 使用場所が小石、土、砂利などで凸凹していたり、軟らかい所や傾斜地では使用しないでください。発電機が転倒し、本機や使用器具の故障を起こすだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 発電機の改造は絶対にしないでください。
本機や使用器具が故障するだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- カバー類を外したまま使用しないでください。手や足をはさんだり思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 雨の中や水のかかる場所では使用しないでください。
雨や水で濡れた発電機や使用器具を使用したり、また濡れた手で操作すると感電することがあり危険です。
- 電力会社からの電気配線には絶対接続しないでください。
本機や使用器具を故障させたり、火災あるいは人身事故の原因となります。
- 発電機の使用に際しては法律や規則がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。

警告

●使用中は

- 使用中は建物およびその他の設備から1 m以上本機を離してください。
発電機からの排気ガスは熱くなります。まわりに危険物(油脂類、セルロイド、火薬など)や燃えやすいもの(わらくず、紙くずなど)は近付けないでください。また発電機の周囲を囲ったり、箱をかぶせたりしないでください。本機や使用器具に損傷を起こすだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 使用中や停止直後の発電機はエンジン本体やマフラなどが非常に熱くなります。エンジン本体やマフラなどに触れないでください。やけどなどの傷害を起こします。
- 使用中は発電機を傾斜させたり、移動しないでください。
燃料漏れや振動による自然移動、転倒による本機や使用器具の損傷、故障の原因など思わぬ事故の可能性があります。
- 使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店またはサービス店にお申し付けください。
- 発電機から離れるときは、必ずエンジンを止め、本機から使用器具のコンセントを外してください。
いたずらなどで使用器具が動きだし、思わぬ事故を起こす可能性があります。

警告

●使い終わったら

- 発電機を水洗いしないでください。

電装部品の故障やショートを起こす可能性があります。また湿気や凍結により使用時に感電する恐れがあります。

- 長期保管前には、燃料タンク、気化器(キャブレータ)内の燃料を抜き取り、発電機を火気や、湿気、凍結の恐れのない所に保管してください。抜き取った燃料は火災や爆発の危険性がありますので適切な処理をしてください。
- 各部の点検、清掃は必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン スイッチを“停止”位置にし、点火プラグ キャップを外して行ってください。また、エンジン停止直後のエンジン本体やマフラなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

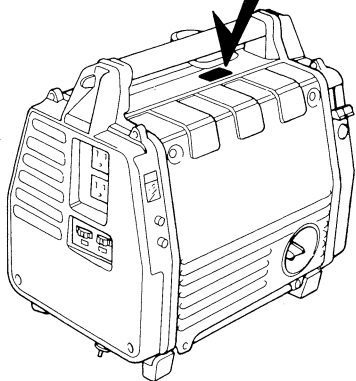
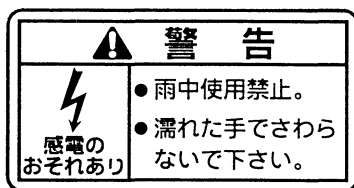
安全ラベル

発電機を安全に使用していただくために、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。

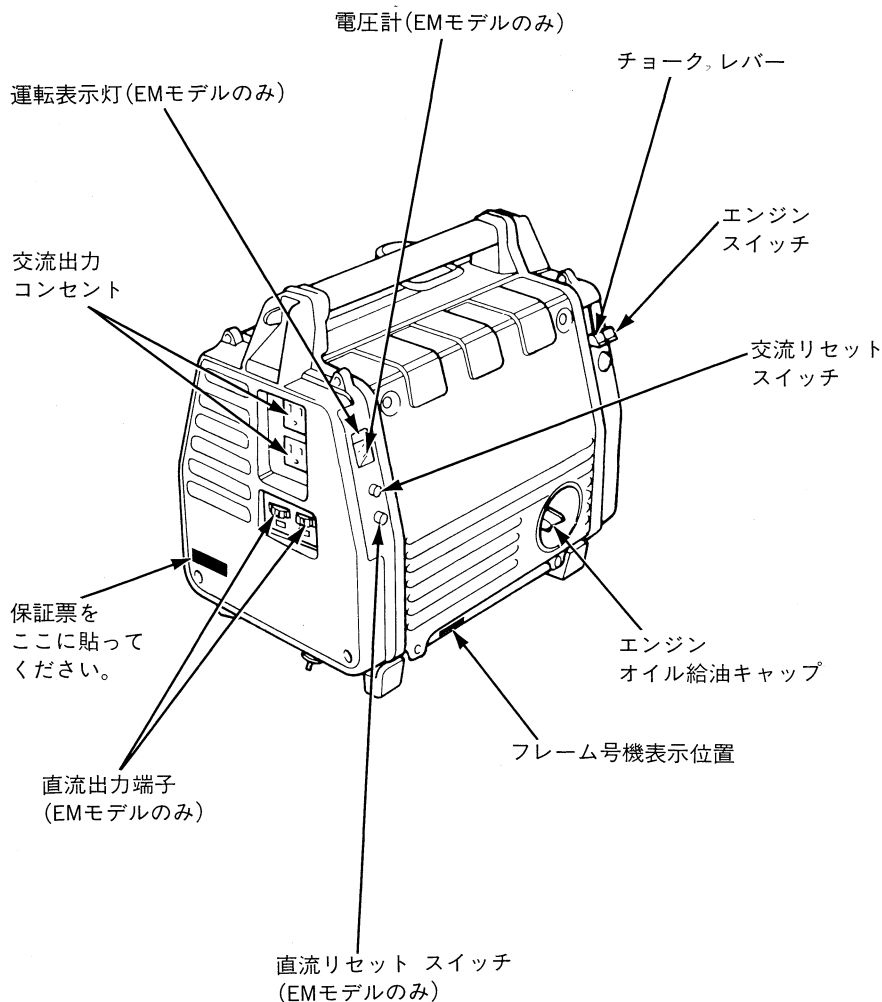
ラベルははっきりと見えるように、きれいにしておいてください。

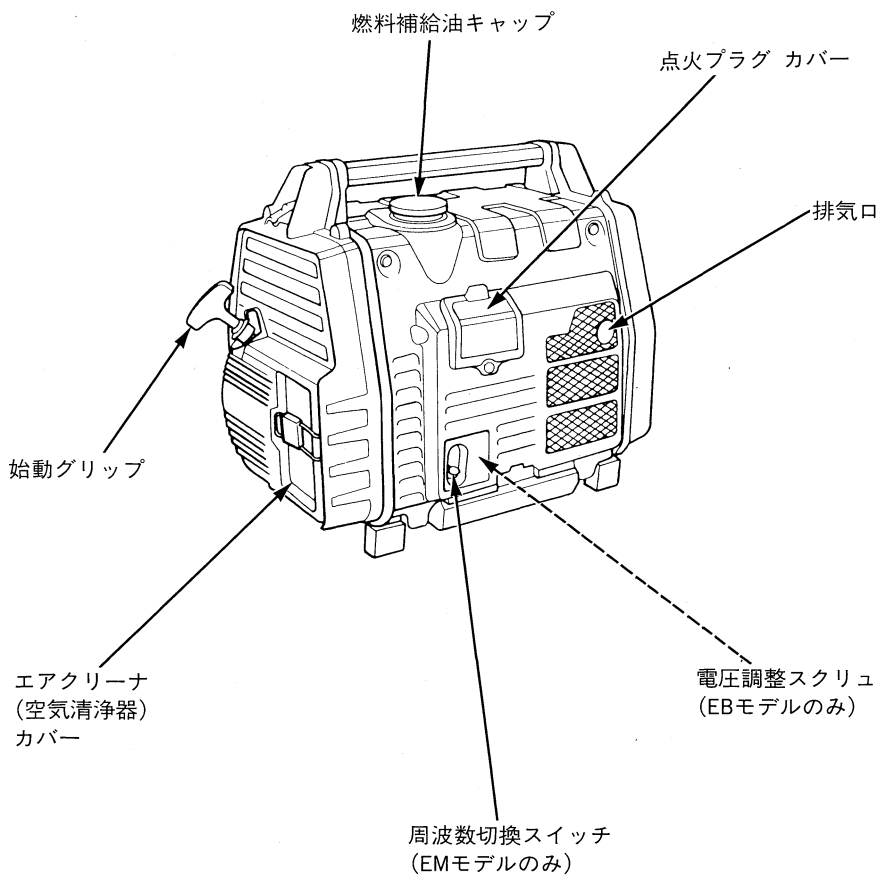
本機に貼ってあるラベルが破れ、紛失、汚れなどで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また、安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。

安全ラベルはお買いあげ販売店またはサービス店にご注文ください。



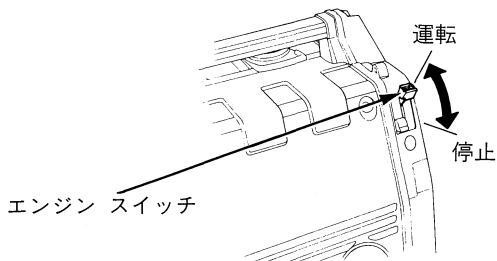
各部の名称と取扱いをおぼえましょう





エンジン スイッチ

発電機を運転、停止させるときに操作します。



オイル アラート機構(EMモデルのみ)

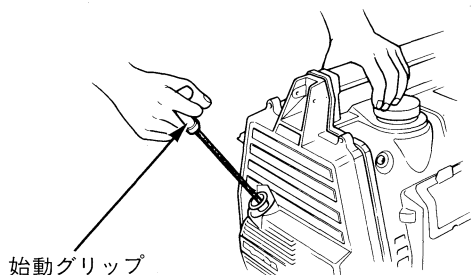
エンジンにはオイル アラート機構(焼付き防止エンジン自動停止装置)が内蔵されているため、運転中にエンジン オイルが不足するとエンジンは自動的に停止します。

エンジン オイル量を点検し、補給してください。(点検、補給は19頁参照)

オイルが規定量入っていても、本機が傾斜しているとオイル アラート機構が働き、エンジンが停止することがあります。

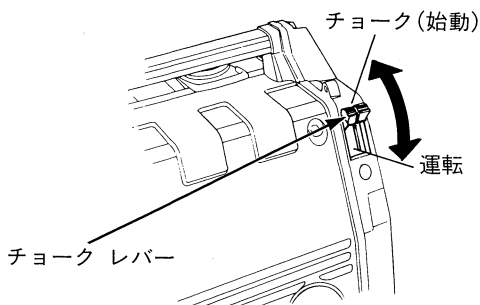
始動グリップ

発電機を始動するときには操作します。



チョーク レバー

始動時にエンジンが冷えているときにチョーク レバーを“チョーク” (始動) の方向に操作します。

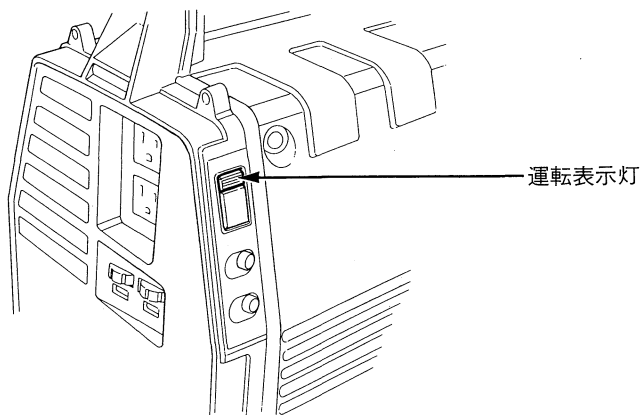


運転表示灯 (EMモデルのみ)

発電機のエンジンが運転中であることを表示するランプです。

点灯：運転中

消灯：停止



交流リセット スイッチ

交流回路を保護します。

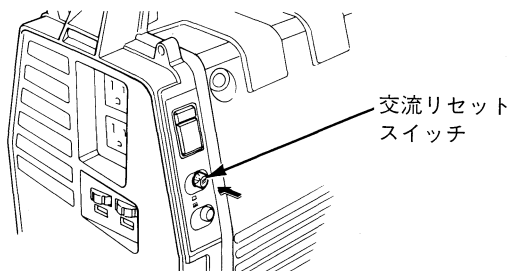
発電中に使用器具に異常があった場合や過負荷のときにリセット スイッチが切れ、電気が取出せなくなります。

使用する電気器具は必ず定格出力内で使用してください。主要諸元(44頁)、交流出力の使用できる範囲(45頁)を参照してください。

リセット スイッチが切れた場合はすぐに"入"にしないで使用器具に異常がないか、また電気の取出し過ぎではないか確認してからスイッチを"入"にします。

入 ☐ : 回路が接続する

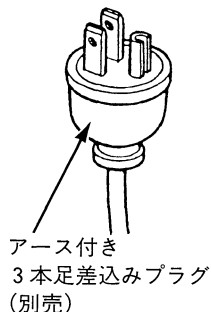
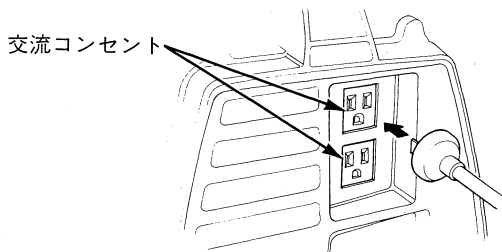
断 ☒ : 回路が切れる



交流コンセント

交流電気を取出すところです。

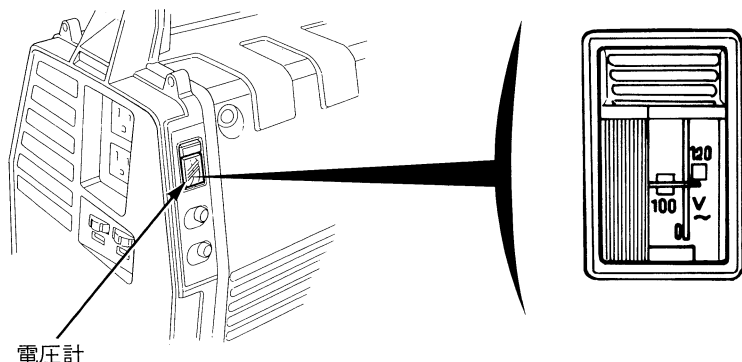
コンセントへプラグを差し込む場合は接触不良、抜けのないように確実に行ってください。



差し込みプラグは、図のようなアース付き 3 本足差し込みプラグを使用してください。

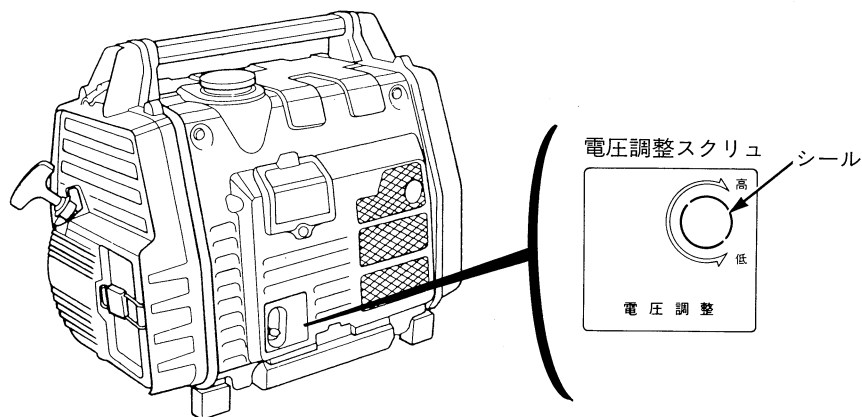
電圧計(EMモデルのみ)

電圧計には発電中の電圧が表示されます。



電圧調整スクリュ(EBモデルのみ)

交流電源の電圧を調整スクリュで調整できます。



通常でご使用の場合は電圧調整スクリュを操作する必要はありません。使用器具の状態により電圧を変更する場合は、シールの中央を破りマイナス ドライバで調整してください。

直流リセット スイッチ/直流出力端子(EMモデルのみ)

直流リセット スイッチ

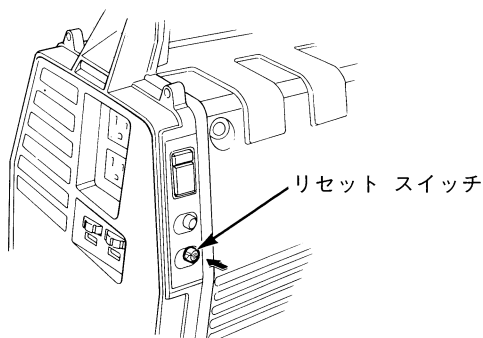
直流回路を保護します。

発電中に異常があった場合や過負荷の時にリセット スイッチが切れ電気が取出せなくなります。

スイッチが切れた場合はすぐに“入”にしないで接続配線に異常がないか、また電気の取出し過ぎではないか確認してからスイッチを“入”にします。

入 ☐：回路が接続する

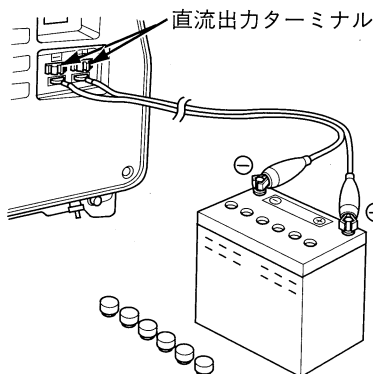
断 ☐：回路が切れる



直流出力端子

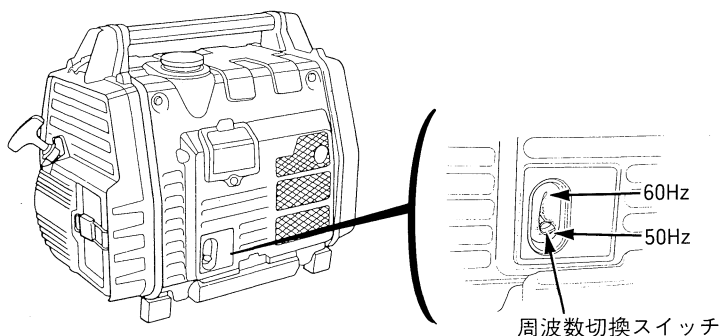
直流出力端子は直流出力を取出すところで、12Vバッテリー充電専用です。

交流出力を使用していても直流出力を取出せます。(60Hzを使用時) 充電コードのプラス、マイナスは極性に注意し、接触不良のないように確実に接続してください。充電コードの接続のしかたは29頁を参照してください。



周波数切換スイッチ(EMモデルのみ)

周波数の切換(50Hz~60Hz)を行うスイッチです。

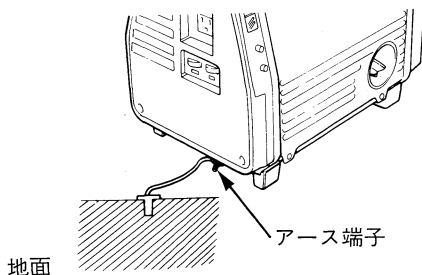


- ・ 周波数の切換は必ずエンジンを停止して行ってください。
- ・ 60Hzの位置で550Wまで、50Hzの位置で450Wまでの交流出力が取出せます。使用器具に合わせて切換えてください。
- ・ 直流出力を使用する場合は60Hzに合わせてください。

アース端子

発電機を地面にアースする端子です。

使用器具をアースしたときは、発電機もアースしてください。



運転をする前に点検しましょう

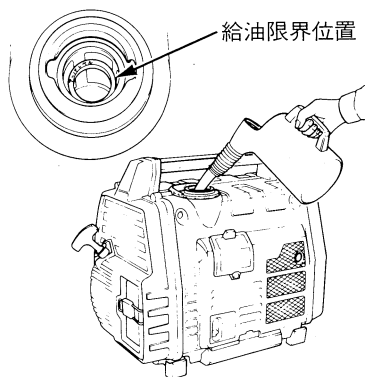
⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ キャップを外して行ってください。

燃料の点検

●点検

燃料タンク キャップを外し、注入口のレベル(給油限界位置)まで燃料があるか点検します。
少ない場合は補給します。



●補給

タンク容量：2.8ℓ

使用燃料：自動車用ガソリン

- ・ 燃料給油キャップを外し、注入口のレベル(給油限界位置)を越えないように燃料を補給します。レベルより上に補給すると、燃料が漏れることがあります。
- ・ 補給後、キャップを確実に締付けてください。

⚠警告

燃料は非常に引火しやすく、また気化した燃料は爆発して大けがや死亡事故を引き起こす恐れがあります。

燃料を補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 火気を近づけないでください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 燃料はこぼさないように補給してください。万一こぼれた時は、布きれなどで完全にふき取ってください。ふき取った布などは火災と環境に注意して処分してください。
- 燃料は口元まで入れず所定のレベルまで補給してください。入れすぎるとタンク内の燃料が燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

エンジン オイルの点検

点検

エンジン オイル給油キャップを外し、規定量までオイルがあるか点検します。

汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換方法は33頁参照)

補給

少ないときは新しいオイルを口元まで補給します。

推奨オイル:

4サイクル ガソリン エンジン オイル

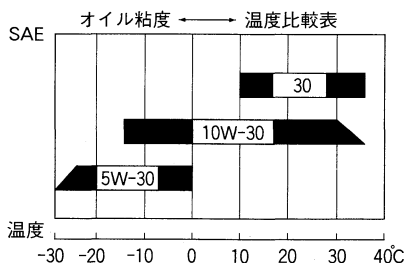
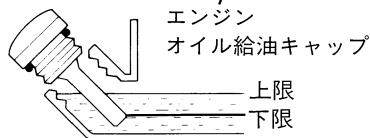
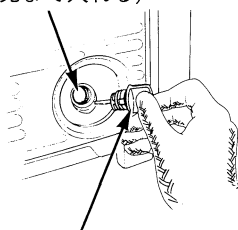
ホンダ純正 ウルトラ ネオ汎用機用 (SAE30)

ウルトラ-U<2 輪車用>

(SAE 10W-30)

またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

注入口(口元まで入れる)



取扱いのポイント

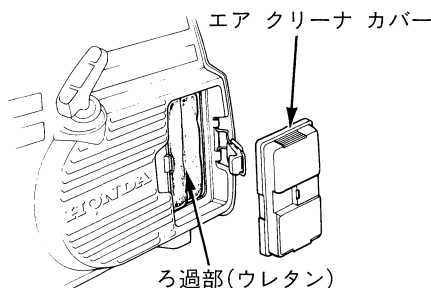
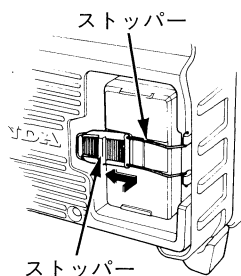
- ・低温時(気温10℃以下)では、ホンダ純正ウルトラ-U<2 輪車用> SAE 10W-30のオイルをご使用ください。
- ・寒冷時(気温-15℃以下)ではAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30オイルをご使用ください。
- ・給油キャップは確実に締付けてください。確実に締付けないとオイルがにじみ出ることがあります。

エア クリーナの点検

点検

1. ストッパを押しながら左へずらし、ホルダを外します。
2. エアクリーナ カバーを外し、ろ過部(ウレタン)の汚れを点検します。

汚れのひどい場合は、ろ過部(ウレタン)の清掃をします。(清掃方法は34頁参照)



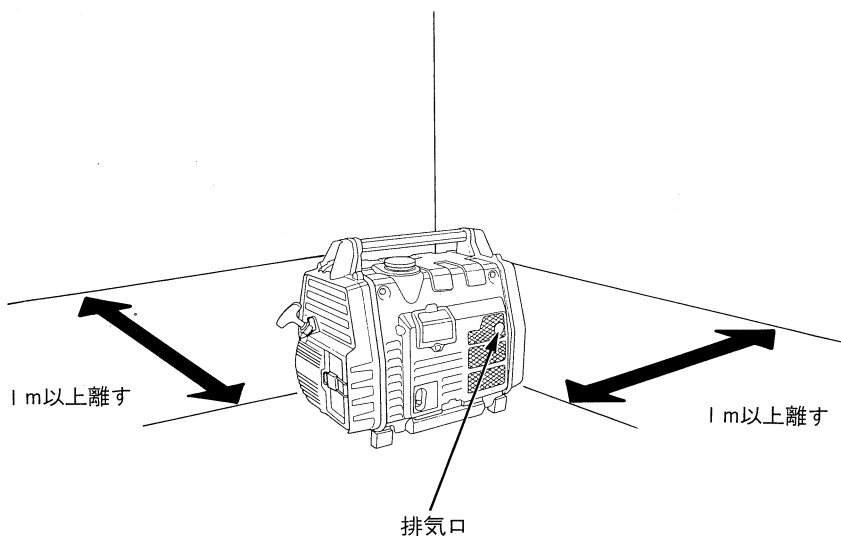
3. ろ過部(ウレタン)とエアクリーナ カバーを確実に取付け、ホルダをセットします。

取扱いのポイント

カバーの取付けが不完全であったり、ろ過部(ウレタン)が変形して取付けられた場合、またカバーやろ過部(ウレタン)が取付けられていない場合はエンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。カバーやろ過部(ウレタン)などは確実に取付けてください。

発電機周辺の点検

- ・ 燃えやすいものや危険物は置いていませんか。
- ・ 建物および他の設置物から 1 m 以上離れていますか。
- ・ 風通しは良いですか、また換気は十分ですか。
- ・ 排気口は風通しの良い、広場に向けてありますか。
- ・ 周囲に火の気はないですか。
- ・ 発電機をダンボール等で囲っていませんか。
- ・ 使用場所が小石、土、砂利等で凸凹していたり軟らかい所では使用しないでください。やむをえず使用する場合は発電機の下に板などを敷いて本機を安定させてください。
- ・ 傾斜地では使用しないでください。

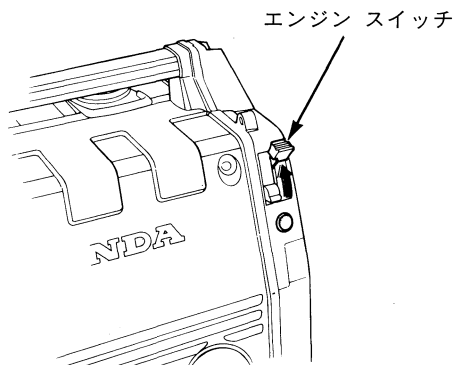


発電機のかけかた

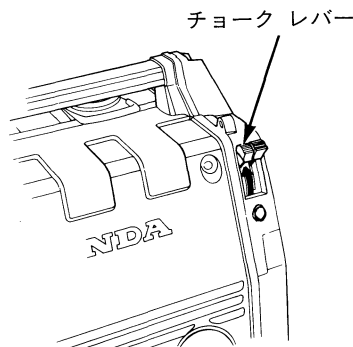
⚠注意

発電機のコンセントから使用器具のプラグが抜いてあることを確認してください。使用器具が不意に作動を始め思わぬけがや事故を起こす可能性があります。また使用器具が接続されたまま発電機を始動すると始動困難や発電性能に異常をきたすことがあります。

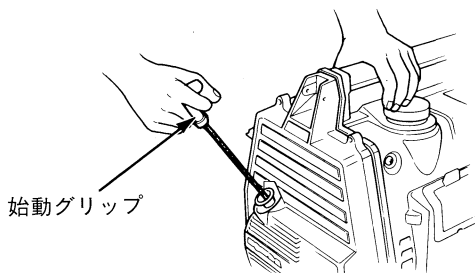
1. エンジン スイッチを“運転”の位置に合わせます。



2. エンジン冷間時は、チョーク レバーを“チョーク”（始動）の位置に合わせます。



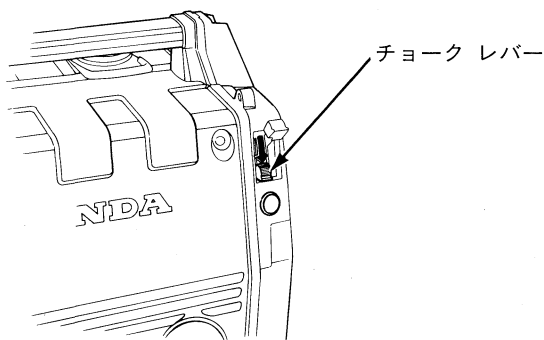
3. 始動グリップを引いて重くなる所をさがし、始動グリップを一度戻してグリップを勢いよく引くとエンジンがかかります。



取扱いのポイント

- ・ 始動グリップを引いたまま手を離さないでください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。
- ・ 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

4. 始動後エンジンの回転が安定したらチョーク レバーを徐々に戻して“運転”の位置にし暖機運転を行います。



電気の取出しかた

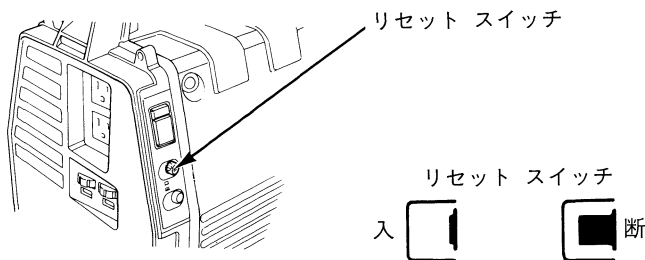
使用器具を接続する前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう”の項目をよくお読みください。

⚠警告

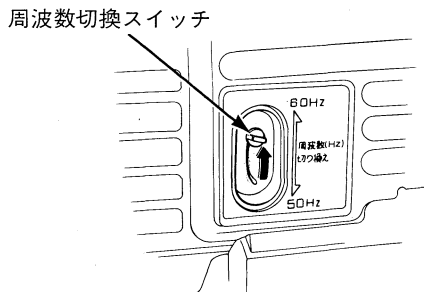
- 電力会社からの電気配線には絶対接続しないでください。
火災あるいは人身事故、または本機や使用器具が故障する原因となります。
- 発電機の使用に際しては法律や規則がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。

交流

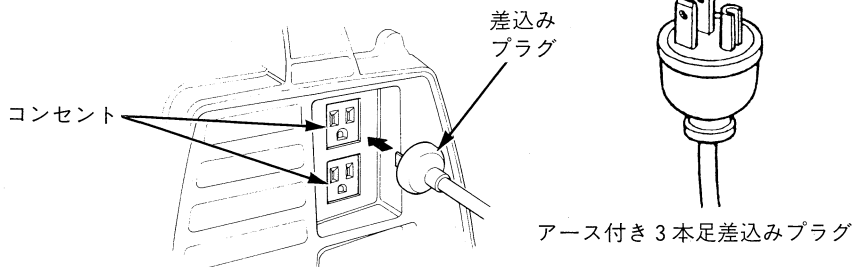
- 交流リセット スイッチが“入”であることを確認します。



- 周波数切換スイッチを使用器具の周波数にあわせます。



3. 「発電機のかけかた」に従ってエンジンを始動します。
4. 使用器具のスイッチが切れていることを確認し、コンセントへ使用器具のプラグを確実に差し込みます。
差し込みプラグは図のようなアース付き 3 本足差し込みプラグを使用してください。



⚠ 注意

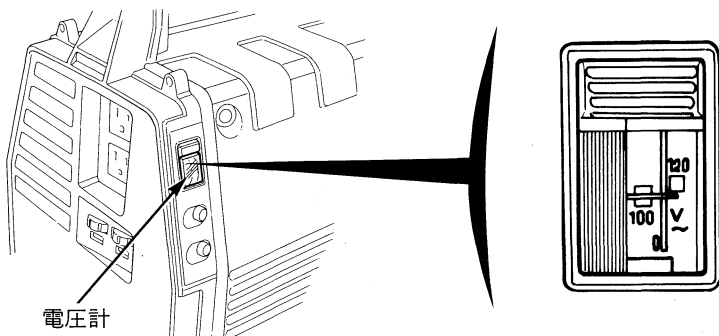
- ・ 接続されている使用器具のスイッチが“切”れていることを確認してください。
使用器具のスイッチが“入”っていると、使用器具が急に作動し、思わぬけがや事故を起こす可能性があります。

5. 使用器具のスイッチを入れます。

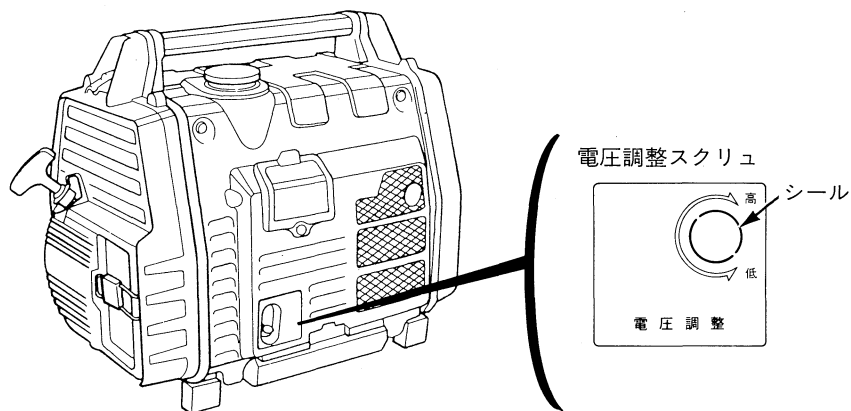
取扱いのポイント

使用器具によっては過負荷となりリセット スイッチが切れます。
使用できる範囲は45頁を参照してください。

- ・ 電圧計で規定電圧が出ているか確認できます。(EMモデルのみ)



6. 使用器具の状態により電圧を変更する場合はシールの中央を破り、プラスまたはマイナス ドライバで電圧調整スクリュを回して調整します。(EBモデルのみ)



直流(12Vバッテリー充電専用)(EMモデルのみ)

12Vバッテリーの充電以外には使用しないでください。

⚠警告

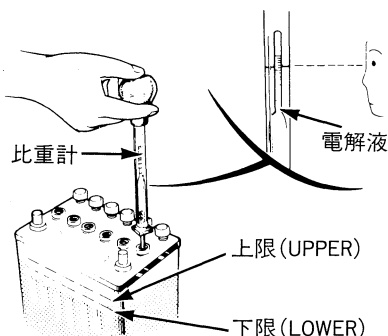
- ・バッテリーを取り扱うときは風通しの良い所で、ショートによる火花に注意してください。また火気を近づけないでください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- ・バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに大量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。
- ・充電するときは、バッテリーに接続されているコードはすべて取外してから行ってください。外す時はマイナス⊖側から外し、接続はプラス⊕側から行ってください。誤るとショートする場合があります。

取扱いのポイント

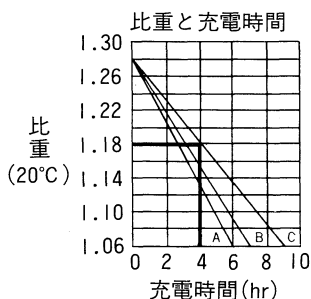
バッテリーを長時間充電すると、バッテリー液温度が上がりバッテリーの機能が低下する場合があります。

バッテリーの種類によって取扱いが異なります。ここでは解放型バッテリー(液補充型)を中心に説明します。

1. バッテリーに接続されているコードやチューブを外し、バッテリーを取外します。
2. バッテリーの比重を測定します。
 - バッテリーの栓を外して、バッテリー液量を点検します。液面が下限(LOWER)に近い場合は、各セルに蒸留水を上限(UPPER)まで補給します。
 - 必ず蒸留水を補給してください。水道水はバッテリーの寿命を縮める原因になります。



- 比重計でバッテリー液の比重を測定します。
 - 比重は1時間おき位に測定してください。またリセット スイッチが切れていないか確認してください。(目安として満充電の比重は1.26~1.28です。)
 - 各セルの比重も測定してください。
3. バッテリー液の比重を基に充電時間を求めます。
- 詳細についてはバッテリーの取扱説明書に従ってください。
 - 例：図は比重1.18の47Ah/20HRバッテリーを約4時間充電すると満充電になることを示しています。
 - バッテリーの種類、放電状態によって充電時間は異なる場合があります。



バッテリー：容量

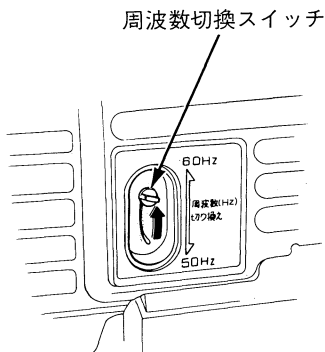
A：30Ah/20HR

B：35Ah/20HR

C：47Ah/20HR

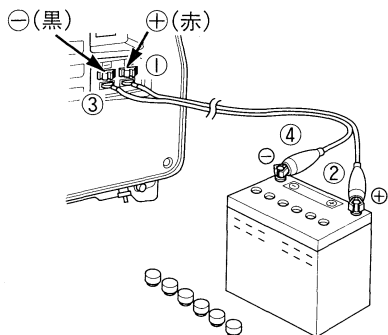
※30Ah/20HRとは(30アンペア アワー20時間率放電時)電流1.5Aで連続20時間放電できるバッテリー容量を示します。

4. 周波数切換スイッチを60Hzに合わせます。



5. 充電コードの届く範囲で発電機からできるだけ離れた場所にバッテリーを置き、バッテリーの栓を外します。
6. 充電コードで直流出力端子とバッテリーをつなぎ、エンジンを始動して充電します。

コードの取付けは必ず図の番号順に行ってください。



⚠警告

充電コードは⊕⊖の極性を間違いなく接続してください。ショートする場合があります。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。また発電機やバッテリーの故障の原因となります。

取扱いのポイント

リセット スイッチが“断”になっているときは、結線を確認してから“入”にします。

7. 充電が終了したら、エンジンを停止し、取付けの逆の手順で充電コードを外します。
8. バッテリーに栓を取付け、バッテリーを取付けます。

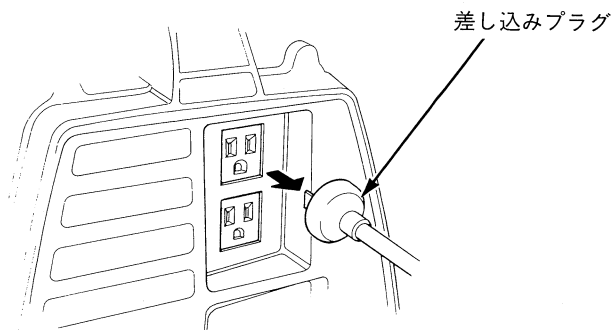
発電機のとめかた

緊急停止の場合

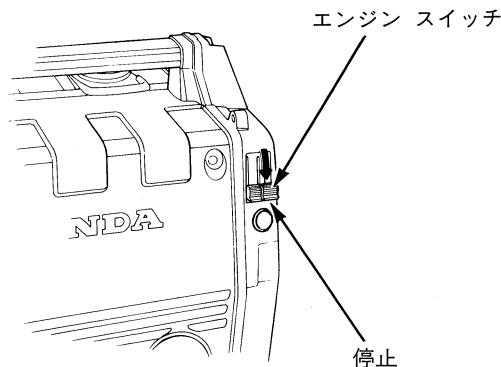
エンジン スイッチを“停止”の位置にします。

通常の停止

1. 使用器具のスイッチを切ります。
2. 差し込みプラグを抜きます。



3. エンジン スイッチを“停止”の位置にします。



⚠ 警告

発電機を保管するときや点検整備時には燃料漏れを防ぐためにエンジン スイッチを“停止”の位置に合わせてください。こぼれた燃料に引火することがあります。

定期点検を受けましょう

販売店またはサービス店で実施していただく点検整備項目について
この取扱説明書に記載されているお客様ご自身で行っていただく点検
整備項目のほかに、お買いあげ販売店またはサービス店で定期的に実
施していただく項目があります。

お買いあげいただきましたホンダ発電機をいつまでも安全で調子よ
く、長持ちさせるために、定期点検を受けましょう。

販売店またはサービス店で実施する定期点検整備項目

燃焼室の清掃(バルブの摺合わせを含む)

…12か月毎または300時間運転毎実施

吸入、排気弁すき間の点検・整備…12か月毎または300時間運転毎実施

燃料タンク、燃料ろ過網の清掃…12か月毎

燃料チューブの点検……………2年毎

やさしい点検・整備

⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン スイッチを“停止”位置にし、点火プラグ キャップを取外して行ってください。

⚠注意

エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度や油温が高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。

交換時期、オイル容量を守りましょう。

〈交換時期〉 初回：20時間運転目

以後：100時間運転毎または6か月毎

〈推奨オイル〉 4サイクル ガソリン エンジン オイル

ホンダ純正 ウルトラ ネオ汎用機用 (SAE30)

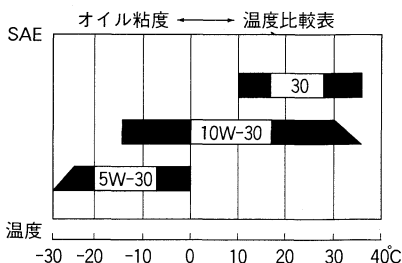
ウルトラ-U<2 輪車用> (SAE 10W-30)

またはAPI分類SE、SF級またはSG級相当のSAE 10W-30オイル

〈規定量〉 0.35ℓ

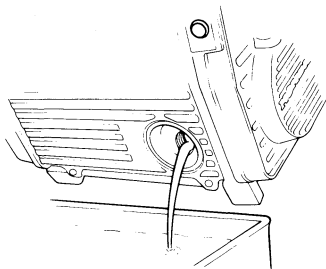
取扱いのポイント

- ・低温時(気温10℃以下)では、ホンダ純正ウルトラ-U<2 輪車用>SAE 10W-30のオイルをご使用ください。
- ・寒冷時(気温-15℃以下)ではAPI分類SE、SF級またはSG級相当のSAE 5W-30オイルをご使用ください。

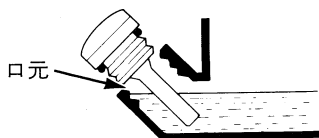
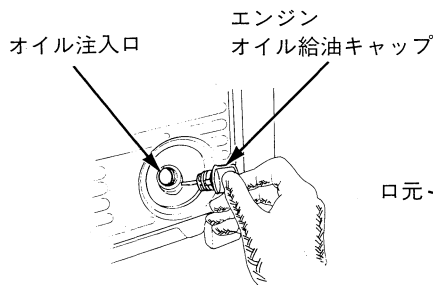


交換のしかた

1. エンジンオイル給油キャップを外し、本機を傾けてオイルを抜きます。



2. 新しいエンジン オイルを注入口の口元まで注入します。
3. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。



取扱いのポイント

- ・ 交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。
- ・ オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。

エア クリーナの清掃

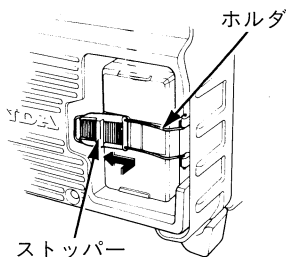
エア クリーナが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃をしましょう。

〈清掃時期〉 50時間運転毎

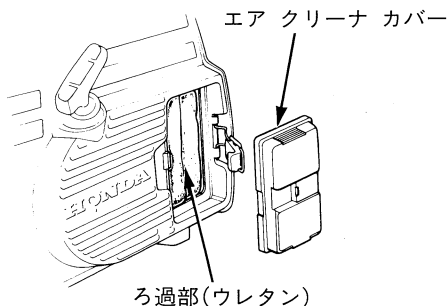
ホコリの多い場所で使用した場合は1日1回または10時間運転毎

清掃のしかた

1. ストッパーを押しながら左へずらし、ホルダを外します。



2. エア クリーナ カバーを外し、ろ過部(ウレタン)を取外します。

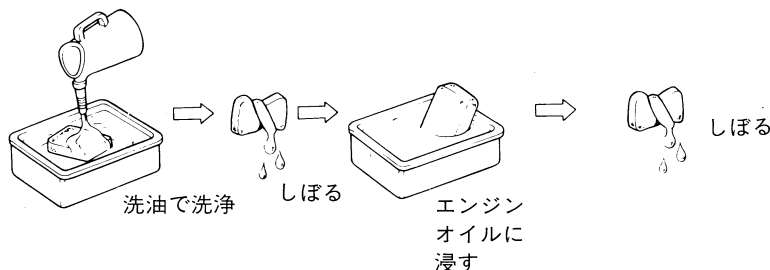


3. ろ過部(ウレタン)を取外し洗い油で洗浄し、固くしぼってからエンジン オイル(ウルトラ ネオ汎用機用—SAE30、ウルトラ-U<2 輪車用>—SEA 10W-30)等に浸し、固くしぼります。

⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。

洗浄は換気の良い場所で行ってください。



4. ろ過部(ウレタン)とエア クリーナ カバーを確実に取付け、ホルダをセットします。

取扱いのポイント

カバーの取付けが不完全であったり、ろ過部(ウレタン)が変形して取付けられた場合、またカバーやろ過部(ウレタン)が取付けられていない場合はエンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。カバーやろ過部(ウレタン)などは確実に取付けてください。

点火プラグの清掃・調整

⚠注意

エンジン停止直後のエンジン本体やマフラ、点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

取扱いのポイント

- ・故障の原因となるので指定以外の点火プラグを使用しないでください。
- ・点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。
- ・点検・調整後は点火プラグ キャップを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因となります。

点火プラグが汚れていたり電極が摩耗すると完全な火花が飛ばなくなり、発電機の不調の原因となります。

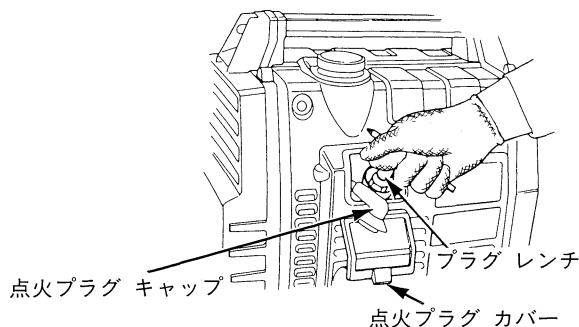
〈清掃時期〉 100時間運転毎

〈指定プラグ〉 BMR-4A (NGK)

W14MR-U (NIPPONDENSO)

清掃のしかた

1. 点火プラグ カバーを外し、点火プラグ キャップを点火プラグより外します。
2. プラグ レンチで点火プラグを取外します。

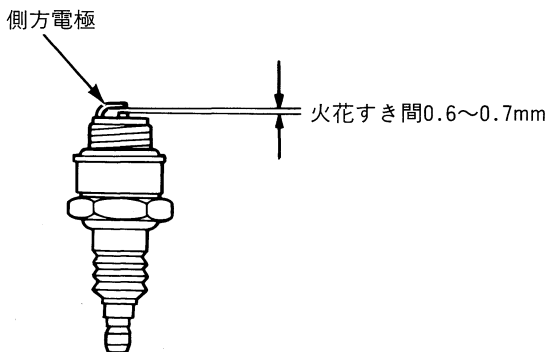


3. 点火プラグを清掃します。

清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店またはサービス店へお申し付けください。プラグ クリーナが無いときは針金かワイヤ ブラシで汚れをおとしてください。

4. 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

火花すき間：0.6～0.7mm



5. 取付けはまず手でねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けます。

常時使用しない場合には

非常用電源などの用途で常時使用しない場合は、いつでも使えるように毎月1回試運転を行ってください。燃料やオイルは長時間放置すると自然劣化してエンジンがかかりにくくなり、また故障の原因にもなります。

取扱いのポイント

燃料は自然劣化しますので3か月に1回、定期的に新しい燃料と入れ換えてください。

試運転のしかた

1. 「運転をする前に点検しましょう」に従って、燃料、エンジンオイル、エア クリーナを点検します。
2. 「発電機のかけかた」にもとづいて始動します。
3. 照明などの負荷をかけて10分間以上運転します。
4. エンジンの調子、オイル、燃料の漏れ、電圧計(EMモデルのみ)、運転表示灯(EMモデルのみ)、エンジン スイッチの作動を確認します。

運搬する場合には

発電機を車両で運搬する場合には、次の事を必ず守ってください。

1. 燃料タンク内のガソリンを抜き取ります。(40頁参照)
2. 燃料タンク キャップを確実に締付けます。
3. エンジン スイッチを"停止"にします。
4. 発電機が落下、転倒、破損等しないような場所を選んで積載し、またロープ等でしっかり固定します。

⚠警告

- ・燃料を入れたまま、発電機を車両に搭載・運搬しないでください。運搬による振動等で燃料が漏れる場合があります危険です。
- ・車室内やトランクに発電機を積んだまま、直射日光の当たるところや高温となる場所に長時間放置しないでください。車両の内部が高温になり、燃料が気化して引火しやすい状態になります。

長時間使用しないときの手入れ

長期間使用しない場合、または長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

⚠注意

エンジン停止直後のエンジン本体やマフラ等は非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

1. 発電機の清掃を行います。

⚠警告

発電機を水洗いしないでください。

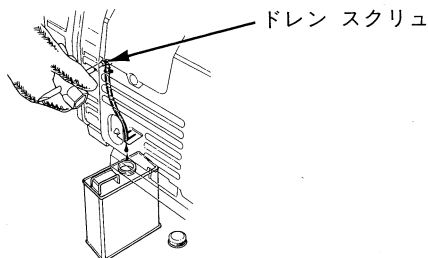
電装部品の故障やショートを起こす可能性があります。また湿気や凍結により使用時に感電する恐れがあります。

2. エア クリーナを清掃します。(清掃：34頁参照)
3. 燃料タンク、気化器内の燃料を抜きます。

取扱いのポイント

燃料は自然劣化します。必ず抜いてください。

- ー 1. エンジン スイッチを“運転”にして、気化器のドレン スクリューをゆるめて燃料を容器に受けます。



-
- － 2. 完全に燃料が抜けたらエンジン スイッチを“停止”にし、ドレン スクリューを締めます。

⚠警告

燃料は非常に引火しやすく、また気化した燃料は爆発して大けがや死亡事故を引き起こす恐れがあります。

- ・火気を近づけないでください。
- ・換気の良い場所で行ってください。
- ・燃料はこぼさないでください。万一こぼれた時は、布きれなどで完全にふき取ってください。ふき取った布などは、火災と環境に注意して処分してください。

4. 始動グリップを引き重くなったところで止めます。
5. 発電機にシート等をかけ風通しのよい湿気の少ない所に保管します。

修理を依頼する前の簡単な点検

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店またはサービス店にお申し付けください。

エンジンが始動しないとき

1. 始動方法は取扱説明書通りですか？(22頁参照)
2. 燃料はありますか？(17頁参照)
3. エンジン オイルは規定量ありますか？(19頁参照、EMモデルのみ)

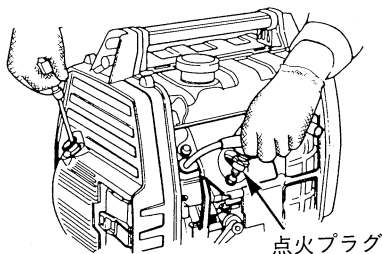
本機はオイル アラート機構付きです。エンジン オイルが不足していたり発電機が傾いていると、始動グリップを引いてもエンジンはかかりません。

4. 点火プラグが汚れていたり、濡れていませんか？(36頁参照)
5. 点火プラグのすき間は正しいですか？(37頁参照)
6. 点火プラグから火花が出ますか？

－ 1. 点火プラグ キャップを
点火プラグより取外しま
す。

－ 2. 点火プラグをエンジンから
取外し、点火プラグを
プラグ キャップに取付
けます。

－ 3. プラグ穴から離れた場所
で、プラグのネジ部をエ
ンジン本体にアースして
おきます。感電を避ける
ためプラグ キャップ以
外には触れないでくださ
い。



- － 4. エンジン スイッチを始動の位置にして始動グリップを引き、プラグの電極に火花が出るか点検します。

⚠警告

- ・この点検は風通しの良い場所でプラグ穴に手や顔を近付けないで行ってください。
- ・燃料が付着していると引火する恐れがあります。布などできれいにふき取ってください。ふき取った布などは、火災と環境に注意して処分してください。

火花が出ないときは、新しい点火プラグと交換するか、お買いあげ販売店またはサービス店にご連絡ください。

電気が取出せないとき

1. 使用器具に異常が無いか、また電気の取出し過ぎではないか確認してください。
2. 少し時間をおいてからリセット スイッチを“入”にしてもう一度確かめてください。

主要諸元

項 目	EM550	EB550J、N	hippo EB550JH、NH
名 称	EM550	EB550	hippo EB550
形 式	EA 3		
エンジン名称	強制空冷 4 サイクル サイド バルブ		
総 排 気 量	76cm ³		
内 径 × 行 程	46mm×46mm		
タンク容量	2.8ℓ		
始 動 方 式	リコイル スタータ		
発 電 機 形 式	2 極界磁回転型		
機 体 型 式	フルカバード タイプ		
寸 法	410mm		
全 長	410mm		
全 幅	270mm		
全 高	375mm		
乾 燥 質 量	22kg		
出 力	450VA/550VA	J型450VA	JH型450VA
定格出力<交流>		N型550	NH型550VA
<直流>	12V—8.3A		
周 波 数	50Hz/60Hz	J型50Hz、N型60Hz	JH型50Hz、NH型60Hz
電 圧<交流>	100V		
<直流>	12V		
電 流<交流>	4.5A/5.5A	J型4.5A、N型5.5A	JH型4.5A、NH型5.5A
<直流>	8.3A		
電 圧 調 整	コンデンサ補償型		
出 力 端 子	交流 アース式コンセント 直流 T型コンセント (EM550のみ)		
型式認可番号	▽第96-355-1	J型▽第96-353-1、 N型▽第96-354-1	JH型▽第96-353-1、 NH型▽第96-354-1

この諸元は予告なく変更することがあります。

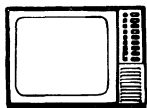
交流電源/直流電源の使用できる範囲

交流電流の使用できる範囲

下記の範囲でご使用ください。



照 明



テレビ・
ラジオなど

EMモデル

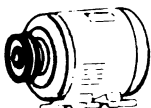
50Hz時：100V—450Wまで

60Hz時：100V—550Wまで

EBモデル

J、JH型：100V—450Wまで

N、NH型：100V—550Wまで



モーター

200Wまで

モーターは起動電流の多い製品、または種類によって使用できない場合があります。

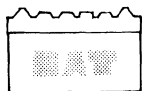
詳しくはお買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。

安定器の付いた放電タイプのランプ(水銀灯、メタルハライドランプ等)を消灯した場合は、ランプが冷えるまで待ってから再点灯してください。発電機や使用器具に不具合が発生する恐れがあります。

使用する負荷によっては発電機とのマッチング上不具合が発生することがあります。お買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。

直流電源の使用できる範囲(EMモデルのみ)

下記の範囲でご使用ください。

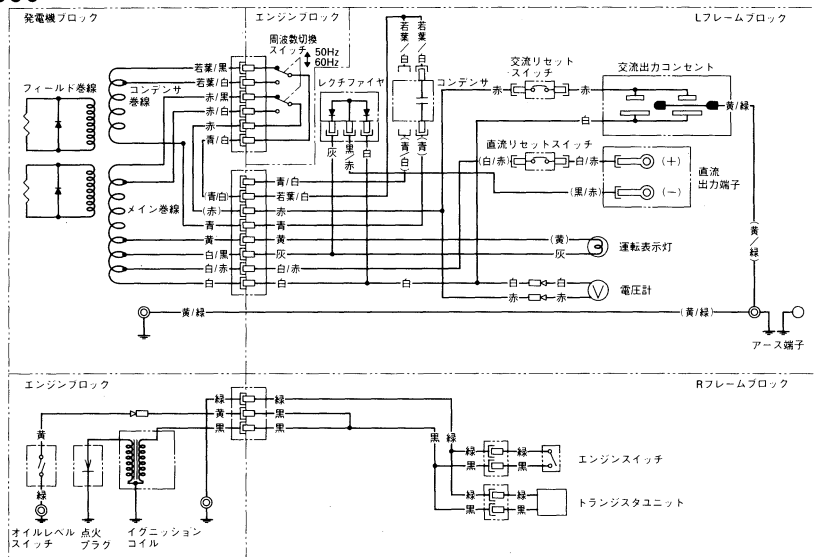


12Vバッテリー充電

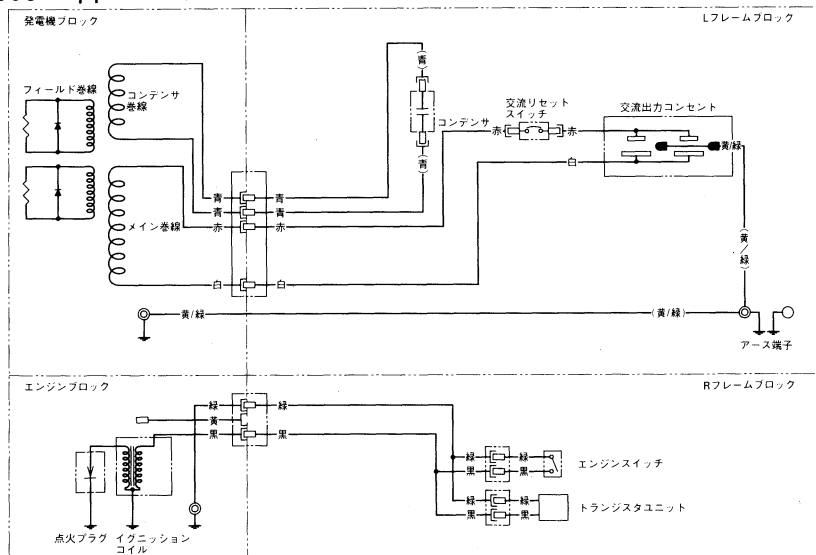
12V—8.3Aまで

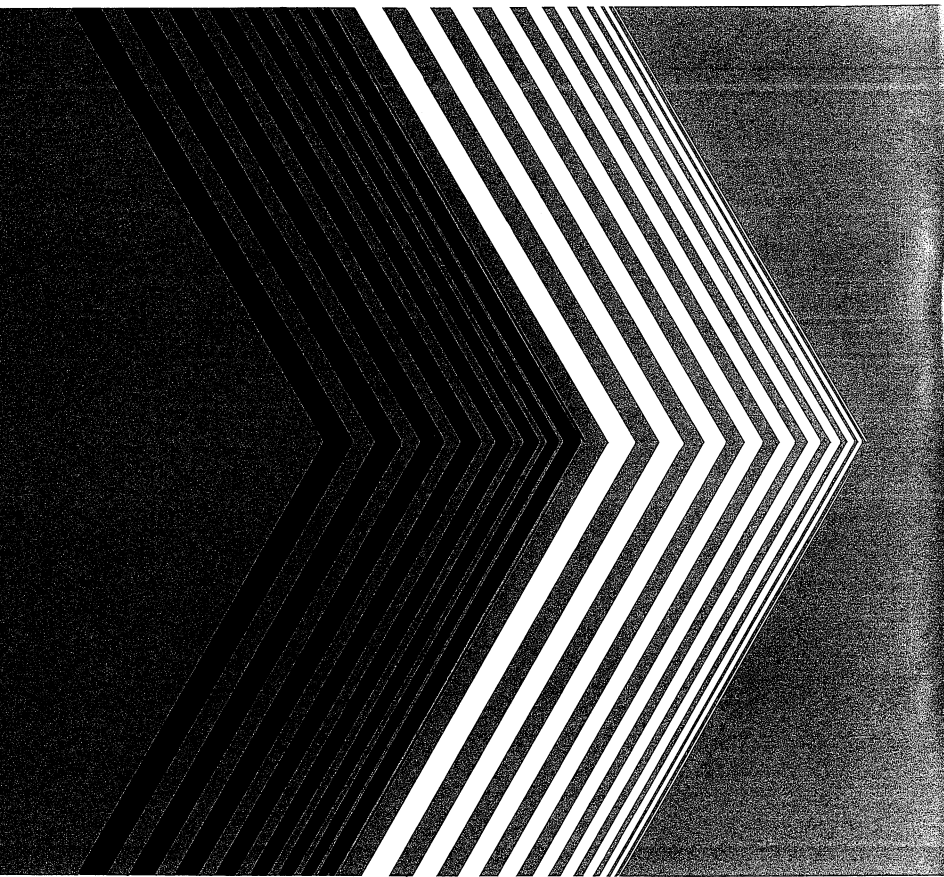
配線図

EM550



EB550 • hippo EB550





HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山2-1-1

30ZA8800
00X30-ZA8-8000



Ⓝ 500.2000.09